

制作概要

ここ数年、光をテーマにした作品は、空間と物の境界、接点を思考する光のデッサンと捉えて来た。今回のLight Workの制作は、さらに「絵画とは．．．」の思索のなかで、絵画の物質的な存在ではなく、ただただ光の存在であり、また非存在として確固として「在る」との認識のなかで、物・事の本質とは．．、絵画とは．．、を考えるライトペインティングの実験と考えた。

Light Work 2005#3は、Light Work 2005#2（個展）の作品を基にCity_net Asia 2005 “Qualia in Ephemera / What are We?” 展のために、絵画として制作を試みた。

Light Work 2005#3（2005#2）は、美術館の白い壁面（画廊の白い壁面）に直接蛍光染料を含んだアクリルガッシュの白で、一辺105cm（一辺90cm）の正方形を描き、その白い正方形がブラックライトの光を吸収し青白く光を放した作品である。それは人工の光を吸収した蛍光ガッシュの白が、自ら光を放し物や空間の環境を形づくっている表面の肌理や現象を映し出した。

Light Work 2005#3（2005#2）の白い正方形が、ブラックライトの点灯により青白く光を放し視覚に訴える。また、ブラックライトの消灯により白い正方形は視覚として認識出来なくなる。しかし、白い正方形はそこに存在として在る。存在と非在のあいだを行き来しながら絵画とは．．を探って行きたい。

なお「City_net Asia 2005」展は、アジア地域の美術館学芸員のコラボレーションによって現代美術を紹介する国際展であり、隔年に開催される美術展として企画された。展覧会の目的は、芸術と文化の今日的問題を紹介すると共に、各々の学芸員によって選ばれたテーマの下に集まったアジアのアーティスト達を紹介するものです。今回はアジアの作家36名の内の一人として参加した。

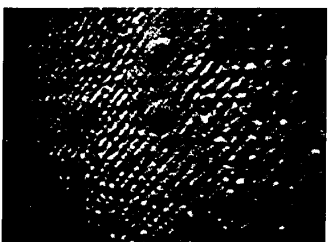
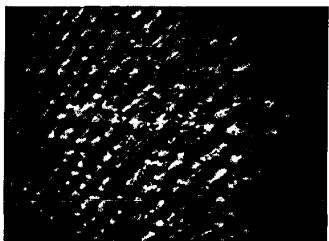
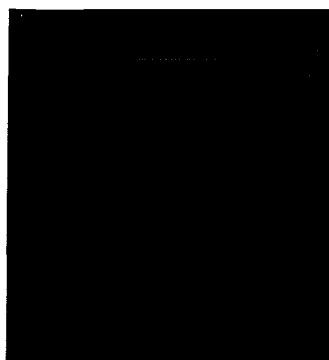
池田 啓子

Light Work 2005#3

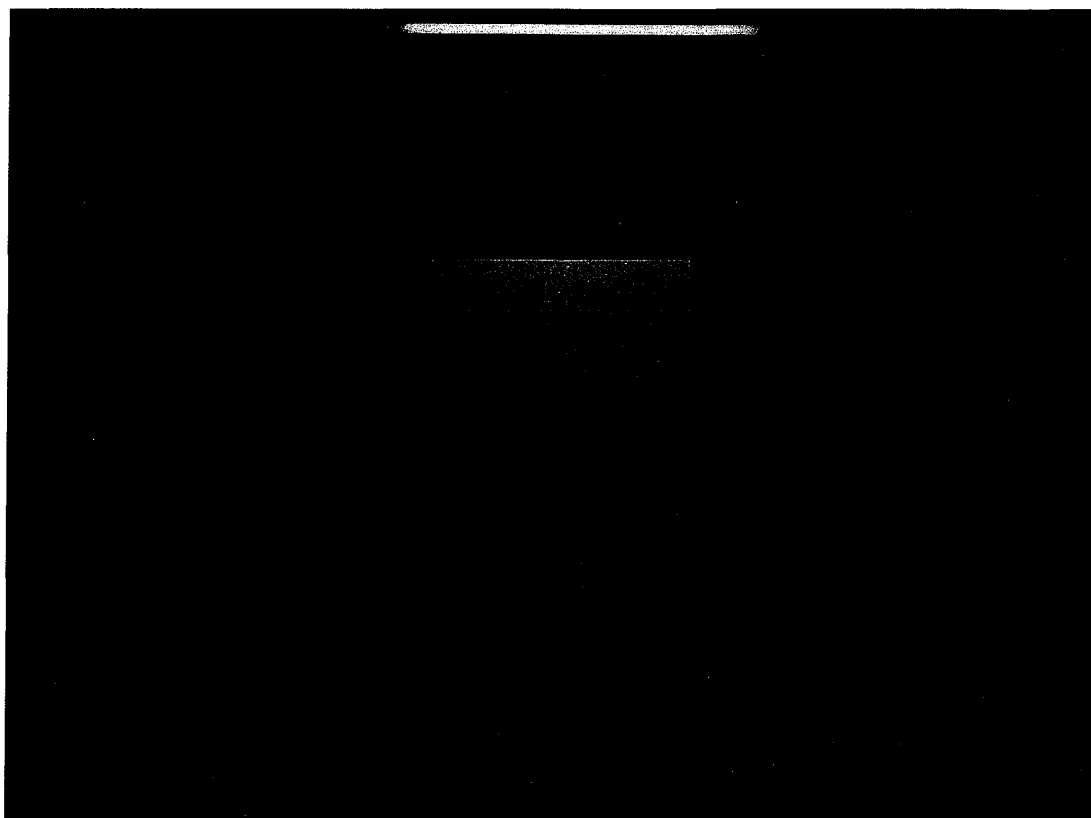
City_net Asia 2005

ソウル市立美術館（ソウル）

（短期海外留学助成金交付作品）

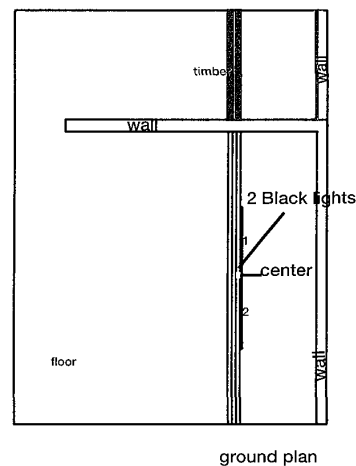
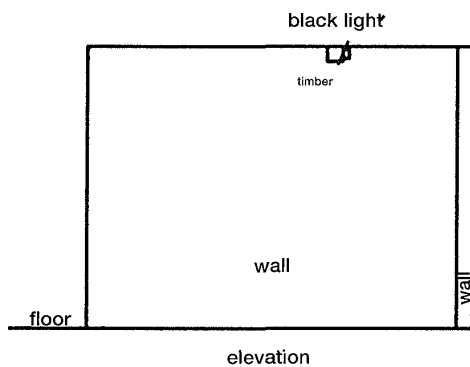
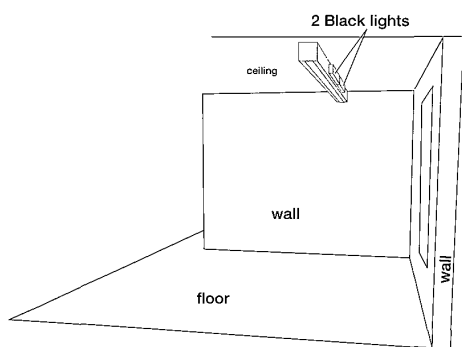


画廊の壁に蛍光ガッシュの白で直接描いた一辺900mmの正方形が、ブラックライトの光を吸収し青く光を放している拡大写真



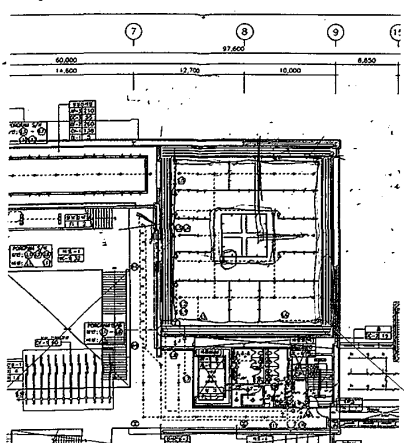
池田 啓子
light work/2005#2
2005年
アクリルガッシュ (lumi white)、白壁、ブラックライト
900×900mm
「池田啓子個展」信濃橋画廊apron (大阪)

light work/2005#3は「city_net Asia2005」に出展依頼があり、先のlight work/2005#2を基に作品計画を考えた。
制作にあたり、light work/2005#2は壁面のディテールを強調したが、light work/2005#3は出来るだけ壁面をフラットな状態を考えた。
制作にあたり現地を訪れ、展示空間の把握、ライティングの打ち合わせなどを行った。
その後、現地スタッフとメールで計画の打ち合わせ確認を行いながら、現地制作へと繋げていった。

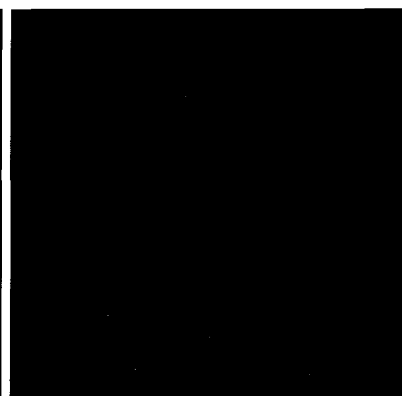
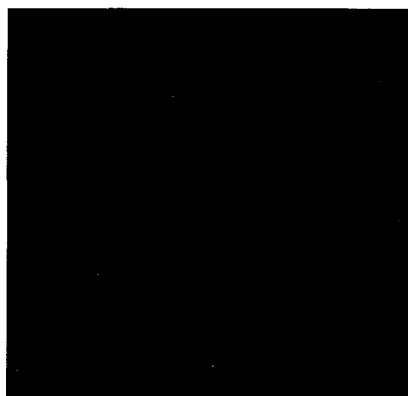


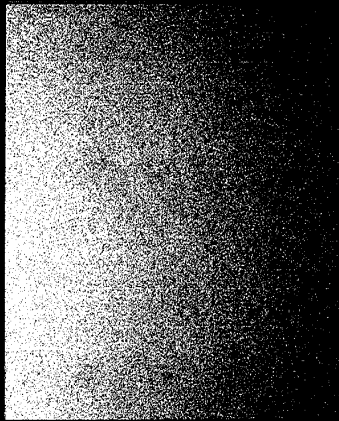
3点の作図は、ブラックライトの設置場所を現地スタッフに依頼するためのラフスケッチ

City_net Asia2005の日本会場の展示図面



美術館の壁に、蛍光ガッシュの白で直接描いた一辺1050mmの正方形が、ブラックライトの光を吸収して青く光を放している拡大写真





池田 啓子

light work/2005#3

2005年

アクリルガッシュ(lumi white)、白壁、ブラックライト
1050×1050mm

「City_net Asia 2005」 ソウル市立美術館 (ソウル)